

1 上原重雄陸軍中佐の慰霊碑



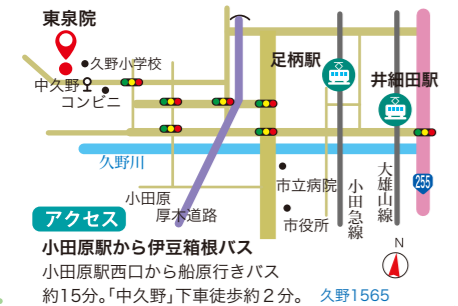
沼代の王子神社近くの道路沿いに戦闘機のプロペラを立てた慰霊碑が建っています。以前は近くの小高い丘のミカン畑の中にあったものを2010年に移してきたものです。上原重雄陸軍中佐は、1945年2月17日、沼代上空で米軍戦闘機との空中戦により撃墜されて戦死しました。上原中佐は当時愛川町にあった第22航空戦隊の隊長で28歳でした。沼代の人たちは遺体を収容し通夜をして弔い、1953年に墜落場所に慰霊碑を建てました。



7 間中喜雄の平和碑



間中喜雄さんは本町の総合病院・間中病院の元院長です。小田原に生まれ、1935年に京都大学医学部を卒業し、医師となりました。40年に召集され、すぐに復員。41年(30歳)に軍医として再召集され、敗戦を沖縄・宮古島で迎えました。宮古島では飢餓状態を体験し、敗戦後の10か月間、沖縄の米軍捕虜収容所で過ごしました。1989年、戦争への怒りと戦争の愚かさを書いた平和碑を久野の東泉院に建てました。



2 菅原神社の忠魂碑



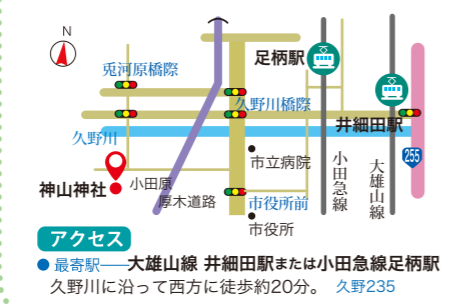
国府津の菅原神社にあります。この碑は、1907年に当時の国府津村有志により建立されました。文字は篆書で、揮毫者は日露戦争第3軍司令官乃木希典です。忠魂とは天皇に忠誠を尽くして戦死したということです。このような石碑を戦争碑と呼び、市内各所で見ることができます。これまで戦没者にゆかりのある方々によって維持されてきたことから、一般にはあまり知られていませんが、地域と戦争との関わりを伝える貴重な資料です。



8 神山神社の魚雷と戦争碑



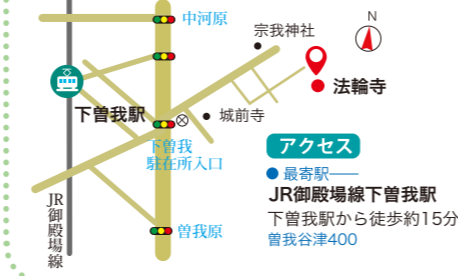
久野の神山神社には、1本の魚雷と3基の戦争碑があります。戦争碑は日清戦争、日露戦争、アジア太平洋戦争の戦没者のために建立されました。魚雷は防衛省防衛研究所所蔵の史料から、1927年8月に神山神社司から横須賀鎮守府長官宛に廃兵器下付の申請がなされ、翌月に許可が下り、海軍軍需部から「神社備付用記念品」として「四十五種魚形水雷頭部共一個」が神社に下げわたされたことが分かっています。



3 法輪寺の「祈の森」の碑



寺の山門近くにあり、裏面には「鳥取歩兵二百聯隊本部有志、横浜市山元小学校疎開学童有志」と記されています。この碑は本土決戦のために1945年4月頃より、小田原市東部に駐留した歩兵第200連隊の元兵士が戦後建てたものです。連隊本部は国府津の宝金剛寺に置かれ、この兵士たちは曾我の山を上った浅間山で陣地構築をしていました。その途中にある法輪寺には学童疎開の児童がいて、元兵士たちとの交流がありました。



4 ユアサの空襲慰霊碑



成田にあるGSユアサ小田原事業所の中に慰霊碑があります。「慰霊の碑」の文字が刻まれた石が置かれ、そばに空襲があったことを伝える石碑と、殉職者名が記された石碑があります。以前は、扇町の湯浅蓄電池小田原工場にあったものを、工場移転に際し移したものです。同工場はバッテリーを製造していた軍需工場でした。1945年8月13日に米軍小型機による空襲を受け、若い女性工員ら13名が犠牲となりました。



5 立川航空兵殉職記念碑



小台地区の住宅地にひっそりと建っています。1932年7月23日、日本陸軍機一機がこの地に墜落し、搭乗員2名のうち、1名は落下傘で脱出し、もう1名(岩橋之夫軍曹)が亡くなりました。墜落した陸軍機は、東京の立川にあった陸軍飛行第5連隊のもので飛行訓練中でした。翌年、小台地区(当時は足柄村)の住民によって殉職記念碑が建てられました。



6 多古の身代り地蔵尊



1945年8月13日、扇町にあった湯浅蓄電池小田原工場が米軍小型機による空襲を受けたとき、工場近くの伊豆箱根鉄道大雄山線の切通し付近に爆弾が落とされました。線路沿いにあった防空壕の天井がその衝撃で落ち、中にいた多古地区の13名が生き埋めとなり亡くなりました。亡くなった方々の冥福を祈って、1969年に防空壕があった場所(市文化財調整室の裏)に、近くのみそ製造の加藤兵太郎商店五代目の妻の加藤文子さんによって「身代り地蔵尊」が建てられました。



9 青橋の機銃掃射弾痕



この空襲記念碑は敗戦間近の1945年8月頃に米軍小型機による機銃掃射を受けて弾痕が残った橋げたの一部です。この橋は「青橋」と呼ばれ、小田原駅西側の東海道本線及び箱根登山鉄道をまたいで掛かっていた跨線橋です。橋げたの改修工事を請け負った地元建設会社田中組の社長田中喜一郎さんが、空襲があった事実を残すため、青橋の側にあった旧田中組本社前に設置しました。現在は移転し、寿町の田中組事務所に置かれています。



10 新玉小空襲の爆弾投下跡



敗戦2日前の1945年8月13日、午前8時~9時頃、新玉国民学校(現新玉小)は米軍小型機による空襲を受け、教職員3名が亡くなりました。投下された4発の爆弾のうち、2発は学校内に、1発は近くの田んぼに、もう1発は隣接する寺院・蓮上院にある中世土塁の上に落ちました。土塁は後北条氏が築いたもので国指定史跡となっています。そのため、爆弾によって生じた穴を埋めることなく、その痕跡を現在に留めることになりました。



12 三の丸小の青い目の人形



1927年に約1万2000体もの青い目の人形が親善使節としてアメリカの子どもたちから日本の子どもたちへ贈られてきました。各地では、贈られてきた青い目の人形の歓迎式典が盛大に行われ、多くの小学校で飾られました。しかしながら1941年にアメリカとの戦争が始まると人形は敵視され、多くが処分されました。幸いにも小田原市立三の丸小学校には、そのうちの一体「メイ・サン・マーチス」が処分されることなく保存されています。



13 郷土文化館の戦争資料



小田原城址公園の一角にある小田原市郷土文化館の展示室には、戦時下の暮らしの様子を知ることができる資料を展示しているコーナーがあります。中でもひととき目を引くのが、金属製の不足から竹や籐で作られた「竹かぶと」です。民間人も空襲への対応としてかぶとを着用することが指導されました。郷土文化館は年末年始を除いて開館(9~17時・臨時休館あり)しており、入館無料です。

